

朝鮮半島の非核化と平和体制構築のための役割を果たすことを求める
意見書（案）

米国のドナルド・トランプ大統領と北朝鮮の金正恩国務委員長が、シンガポールで米朝首脳会談を行った。

両首脳が署名した共同声明によると、金委員長は「朝鮮半島の完全な非核化への強固で揺るぎない決意」を表明し、トランプ大統領は「北朝鮮に対する安全の保証の提供」を約束し、米朝両首脳が「平和と繁栄を望む両国民の願いに従って新しい米朝関係を樹立」し、「朝鮮半島に永続的で安定した平和体制を構築」することを宣言した。

長年にわたって激しく敵対してきた米国と北朝鮮が、初の首脳会談を行い、朝鮮半島の非核化と平和体制構築をすすめるため、両国関係を敵対から友好へと転換させるために努力することで合意したことを歓迎する。

日本政府は、日朝平壤宣言にもとづき、拉致問題をはじめ、核・ミサイル、過去の清算など両国間の諸懸案を包括的に解決し、国交正常化のための努力をはかり、開始された平和のプロセスを促進する役割を果たすことを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年6月29日

様

和歌山県議会議長 藤山 将材
（提出者）
雑賀 光夫
奥村 規子

（意見書提出先）

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

総務大臣

外務大臣

拉致問題担当大臣